わがまちこのひと

ふらっと立ち寄り、ほっとひと息

ふらっとスペース金剛
代表　岡本　聡子さん

今回は、地域で子育て支援活動をされている、ＮＰＯ法人ふらっとスペース金剛（寺池台）代表の岡本　聡子さんをご紹介します。

「せめて一杯のお茶ぐらいゆっくり飲みたい」と自身の経験から、ほっとひと息つける場を作ろうと15年1月、妊娠中から子どもが独立した人まで幅広いスタッフ約10人が集まり、ふらっとを開設しました。当初は、しんどいときにしんどいと言える、ふらっと気軽に立ち寄れる、そんな自分たちの居場所作りが目的だったそうです。そのため、スタッフは先生でも指導者でもなく、愚痴を言ったり聞いたり、互いに支え合い、ここに集まるだれもがＦＬＡＴ（ふらっと）、すなわち対等な関係でありたいとの思いも込めて名付けたそうです。週1回から始めた活動は口コミで広がり、社会のニーズとも相まって、市の委託事業と発展、今では週6回、ほっとひろばを開設しています。

結婚して富田林に住み始めた岡本さんですが、子育て真っ最中だったころ、夫の転勤により東京で暮らすことになりました。見知らぬ地で頼る相手もなく、子育てに息がつまる思いで過ごしていたある日の出来事。イライラが募り、道ばたに転がりだだをこね泣き叫ぶ2歳のわが子を置き去りにし、その場を離れました。しかし、陰から様子を見ていると、そこには泣き叫ぶ子どもを一切気にとめず、何ごともないかのように通りすぎていく大人たちの姿がありました。そのとき、「このまちで私は子育てできない」と痛感したそうです。

間もなくして、次の転勤により富田林に戻ってこられました。子どもを連れて買い物をしていると、見知らぬおばあさんが「かわいいねぇ」と声を掛けてくれました。他人に関心を持つ社会がここにはある、やっぱり富田林に戻って良かった、この温かいまちに住み続けたいと思ったそうです。

近年、人間関係が希薄になり、地域で子どもの面倒を見ることが少なくなりました。そのため、母親は家庭で子どもと一対一で向き合う時間が長くなり、負担感や孤立感は増す一方です。そんな中、これまでにふらっとでどれだけ多くの人が救われたことでしょう。

しかし、岡本さんにとって、ここはあくまでも通過点だそうです。子育てに限らず、もう一度地域で子育てや介護ができる環境を取り戻し、まち全体がふらっと気軽に立ち寄れる、ＦＬＡＴな関係になればと願っておられました。